

テキスト ヨハネによる福音書4章43～54節

イエスが役人の息子を癒すという奇跡物語が記されている箇所を読むと、二つの疑問が生じます。第一はイエスが「預言者は自分の故郷では敬われないものだ」(44節)と語られているのに、それに続く45節では「ガリラヤにお着きになると、ガリラヤの人たちはイエスを歓迎した」と語られているからです。なにかイエスの言葉と故郷の人々の態度に食い違いがあるように感じてしまいます。第二は死にかかった息子を癒してほしいと願う役人に対してイエスは「あなたがたは、しるしや不思議な業を見なければ、決して信じない」(48節)という奇跡についての否定的な答えを語られながら、その言葉のすぐあとに役人の息子の病を癒されている点です。

(1) 故郷の人々の本心は

第一の疑問には、二つの答えが可能ですが。一つはイエスの語る「故郷」の人々とは神の民と自らを主張しながらも、その神の子であるイエスを受け入れることができないエルサレムの人々、またユダヤ人全体を指すという考え方です。

もう一つは、イエスを歓迎したガリラヤの人々の態度は彼らの心から出た誠の態度ではないと考える解釈です。聖書はガリラヤの人々がイエスを歓迎した理由について次のように記しているからです。彼らは「エルサレムでイエスがなさったことをすべて、見ていたからである」と。イエスは過越祭の間エルサレムでしるしを多くの人びとに示しています(2章23節)。ですから故郷の人々の歓迎はこのイエスのしるしと関係していると考えられるのです。ガリラヤの人々の歓迎もイエスのしるしをもっと見たいという願いの現れであり、彼らはイエスを心から信じて歓迎していたわけではないと言えるのです。

(2) しるしを求める信仰

第二の疑問に登場するしるしを求める信仰につ

いてのイエスの否定的な言葉はこの故郷の人々の態度と深く関係しています。

しるしを求める信仰の正体は「それでは、わたしたちが見てあなたを信じることができるように、どんなしるしを行ってくださいますか。どのようなことをしてくださいますか」(6章30節)と言う群衆の言葉の中に示されています。しるしを求める信仰は自分の周りの出来事がイエスの不思議な力によって、都合のいいように変ることを求めます。ところが自分自身は依然として古い人間のままであり、決して新しくされることがないのです。

(3) イエスの言葉信じた

このようなしるしを求める信仰に対して、聖書はイエスの語られるみ言葉を信じる信仰を強調しています。

「イエスは言われた。「帰りなさい。あなたの息子は生きる。」その人は、イエスの言われた言葉を信じて帰って行った」(50節)。役人はイエスのなされたしるしを見て信じたのではありません。息子がどうなったかも彼は知らずにイエスのみ言葉を信じて、家に帰っていったのです。

イエスのみ言葉を信じる信仰は、しるしを求める信仰と違ってその人自身に働いて、その人を新しくし、永遠の命の祝福を与えるのです。もちろん、私たちはこの信仰も聖霊のみ業によって私たちに起こされたものであることを忘れてはなりません(3章5節)。

私たちは聖書を通して、また毎週の教会の礼拝で語られる説教を通して、今もイエスのみ言葉を聞くことができます。そして私たちがそのみ言葉を信じる時、私たち自身が新たにされ、永遠の命の祝福に与ることができるようにされるのです(『子どもカテキズム』問69、70)。(櫻井良一)

テキスト ヨハネによる福音書4章43～54節
参照カテキズム 子どもカテキズム 問25, 34

〔単元のねらい〕

子どもたちを信仰へと養い育てることは、ただ聖霊のお導きにゆだねる以外にありません。しかし、聖霊はご自身のお働きのために、御言葉をお用いになられます。また、御言葉を語る人をお用いになられます。そこに、私どもの出番があります。今日からのテキストは、福音書、主イエス・キリスト御自身を直接に紹介するテキストです。たしかに私どもの信仰教育にとって譲れない主張は、旧新約聖書を子どもたちに救済史として提示し、キリスト教育神論的世界観を養い育てることです。しかし、だからこそ、救済史の頂点である主イエス・キリストを紹介することこそ、その中心となります。この中心点がぼやけると、世界観どころではなくなります。本日、あらためて主イエス・キリストとその御言葉の力を心を込め、愛を込め、情熱を込めて証しましょう。説教題は、詩編第147編15節「御言葉はすみやかに走る」からです。御言葉が語られ、信じて聴かれたら、そこに必ず事件、出来事が起こります。そうであれば、説教者自身の御言葉の体験を証することも必要ではないでしょうか。具体例を挙げなくとも、自分自身の全存在が、御言葉に支えられてあることが伝わりますように。

「御言葉は走る」

さて、イエスさまは、今、ガリラヤのカナという村に来ています。イエスさまは、この村で最初の奇跡を起されました。ある結婚式のお祝いのときに、ぶどう酒がなくなってしまうました。そのことを知った給仕の人はとても困りました。そのとき、イエスさまは水をぶどう酒に変えてくださったのでした。

さて、その村にもう一度イエスさまが戻って来られました。それを聞きつけた一人の男の人がイエスさまのところに大急ぎで駆けつけてきました。とても不安そうな、暗い顔つきをしているお父さんです。その人は、ローマの王さまに仕えている役人です。なぜ、そんな顔つきをしているのでしょうか。なぜなら、かわいい息子が今、死にかかっているからです。おそらくこのお父さんは、お金持ちだったと思います。お医者さんに診てもらっただけのお金なら十分にあっただけです。けれども、お医者さんでは治せないのです。どんどん、子どもが悪くなっています。そして、いよいよお医者さんは、「お父さん、残念ですけれど、もう無理でしょう。」と言って、子どものベッドから

立ち去ってしまったのかもしれませんが。お父さんは、どんどん息をあらげて、苦しんで今にも、もう死にそうな子どもを見て、いてもたってもいられなかったと思います。

「あのイエスさまなら、息子を治してもらえるかもしれない。」そんなことを考えていたのかもしれませんが。そこにすばらしい知らせが届きました。「イエスという人が、カナの村に戻ってきている。」お父さんは、もう、いてもたってもいられません。とにかく、イエスさまのところに大急ぎで駆けつけました。村に着くと、必死になってイエスさまを探しました。そして、ついにイエスさまを探し当てました。

「ああ、イエスさま、良かった、お会いできて。くわしいお話は後からにして、今すぐに、わたしの家に来てください。実は、息子が死にそうなのです。助けてください。直してください。」大変なけんまくです。みんながこのお父さんだったら、やっぱりそうなるのではないのでしょうか？あるいは、皆のお父さんが今、死にそうであって、すぐそばにイエスさまがおられるのだったら、同じよ

うにお願いしませんか？

さて、イエスさまは「よし、わかった。すぐに行こう。」と仰ったのでしょうか。違いました。イエスさまは、そのお父さんに向かって、このように仰せになられました。「あなたがたは、しるしや不思議な業を見なければ、決して信じない。」これはどういう意味でしょうか。このような意味です。「あなたがたは、神さまのなさる不思議な、驚くような奇跡を見なければ、決して信じない。つまり、神さまのこゝろを目で見るようなことがなければ決して神様を信じない。」ということです。要するに、イエスさまは、「よろしい、息子はどこにいるのか、一緒に行こう、案内しなさい。」とは仰せになられなかったのです。

このお父さんは、どんな気持ちがしたのでしょうか。とても悲しくなったかもしれません。もしかすると「ひどいなあ、こんなをお願いしているのに、わたしや家族の気持ちを思いやってもくれないで、そんな厳しいことを言って。がっかりした。もう結構です……」そんな気持ちがわいてしまうのでしょうか。そして、諦めて帰ってしまうのでしょうか。違います。この役人は、それでも、言い続けるのです。「主よ、子どもが死なないうちに、おいで下さい。」このお父さんは、どんなに言われても、イエスさまが来てくださるなら、治していただけると信じ続けます。

そのときです。すぐにイエスさまは仰せになられました。「帰りなさい。あなたの息子は生きる。」お父さんは、こんどもびっくりしたのではないのでしょうか。もしかすると、心の中で、こうつぶやいたかもしれません。「いや、イエスさま、一緒に行って欲しいのです……」でも、お父さんは、そう言いませんでした。イエスさまの御言葉を信じて、言われた通りに帰って行ったのです。

ところがどうでしょう。帰る道、向うの方から、僕たちが迎えに来ています。息子が死んでしまっ

たと告げるのでしょうか。違います。みんな驚いたような顔です。しかもニコニコしています。お父さんは、彼らの顔をみただけで分かったと思うのです。僕たちは、子どもがたちまち癒されたことを知らせに駆け寄ってきます。

お父さんは、聞きました。「いったい何時、息子は元気になったのか。」「きのうの午後1時に熱が下がりました。」そのとき、お父さんは、瞬間に理解しました。それは、イエスさまが、「あなたの息子は生きる」と仰せになったときだと。そして、イエスさまこそが、イエスさまの御言葉こそが、本当に息子を癒してくださったのだと。そして、お父さんはもちろん、息子も家族みんながイエスさまが神さまだと信じたのです。

その通りです。イエスさまは神さまです。そして神さまの御言葉は、必ず、その通りに実現するのです。今日の暗唱聖句を、もう一度一緒に唱えて見ましょう。神さまの口から出た御言葉は神さまの言われたとおり、望まれたとおり実現するのです。場所が離れていても大丈夫です。午後1時にイエスさまが語られたら、遠く離れていても、その通りになったのですよね。神さまの御言葉は走るのです。一瞬にして、届くのです。

今、イエスさまは天のお父さまの右におられます。つまりここには、目に見える形ではおられないということです。困ったとき、大変なとき、それだけではなく、嬉しいとき、楽しいときもイエスさまは目に見えるようには、一緒におられません。それなら、駄目ですか。諦めますか。不安ですか。違います。このお父さんのように、信じて帰ればよいのです。僕たち私たちは今、天におられる神さまの御言葉をここで、教会で聴きましたね。それで十分、大丈夫ではないですか。イエスさまの説教を信じて聴いている僕たち私たちに、イエスさまの御心は必ず実現します。イエスさまは今ここに一緒におられるからです。(相馬伸郎)

[今週の暗唱聖句]

イザヤ書 55章11節

そのように、わたしの口から出るわたしの言葉も

むなしくは、わたしのもとに戻らない。

それはわたしの望むことを成し遂げ

わたしが与えた使命を必ず果たす。

〈ねらい〉

イエス様を知る故郷の人々と王の役人が出てきますが、今回は神様の言葉に聞き従った王の役人のお話に注目します。神様の御言葉に耳を傾けて聞き従うことの大切さと、聞き従うことによって喜びと感謝と祝福があることを知ろう。

〈展開例〉

王様の役人はカナでのイエス様のおかのことを聞いていました。自分の子どもが死にそうになった時、「神様、助けてください」と心の中で叫んでいました。「イエス様のおかがあれば、この近くにいてくださればいいのに」と思っていた時に、イエス様が近くに来ていらっしゃることを聞いたこのお父さんは、必死になってイエス様を捜しました。お父さんはイエス様に、「息子が死にそうです。助けてください。」と言いました。イエス様がおいで下されば、子どもは治ると信じていたのです。しかしイエス様は、「あなた方はしるし

や不思議な業を見なければ決して信じない。」と言われました。イエス様は家において下さいませんでした。けれども、「帰りなさい。あなたの息子は生きる。」とのお言葉を下さいました。

この人はどうするのでしょうか。しるしも見ていません。子どもがどうなったかも知りませんでした。しかし、イエス様とイエス様のくださった言葉を信じました。イエス様がおっしゃることは、きっとそのようになると信じたのです。イエス様は、一番大切な信仰をこの役人に下さいました。つまり、神様の言葉に聞き従う心を与えてくださったのです。

イエス様は本当に力のあるお方です。そのイエス様に素直に従う心を与えられたいと思います。

〈おいのり〉

私たちにも大変なことが起こることがあります。そんな時でも、神様のお言葉を信じて生きることができるようにしてください。

〈やってみよう〉

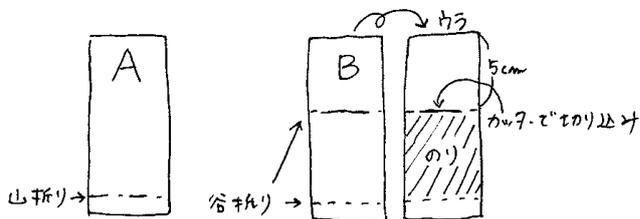
『おき上がりこぼし』を作ろう！

準備：4×11cmの厚紙 2枚

空缶 or フィルムケース or トイレトペーパーの芯など
おもり(乾電池など)

病気の息子は
元気になるか？

① 2枚の厚紙に 息子の顔を書く



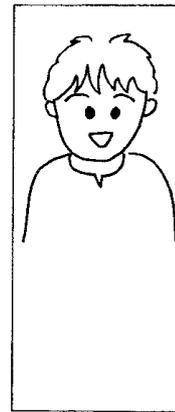
② Bのウラ上から5cmの辺にカッターで切り込みを入れる

切りはなす時は注意

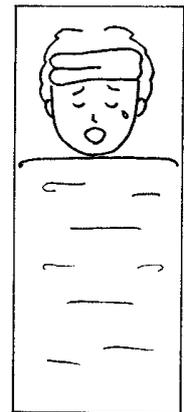
③ 斜線部へのりを付け Aの上には貼り付ける

④ Bの切り込み部分に折り線を付けて上下に重きやすくする

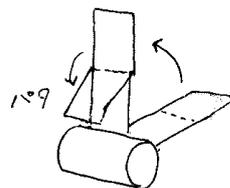
⑤ 重りを付けた空缶等に ④ を付けたら出来上がり



A



B



〈ねらい〉

自分の思い通りのしるしを見るまでは信じないというわがままな思いを捨て、御言葉に聴き従うことが大切であることを学ぶ。これは人間には難しいことだが、離れたところにも直ちに伝わって御心を実現する御言葉の力を信じ、聴き従うことができるように祈りたい。

〈展開例〉

1. イエス様がエルサレムのあるユダヤ地方から故郷のガリラヤに戻って来られた時、ガリラヤの人たちはイエス様を歓迎しましたが、イエス様から与えられたしるしはわずかでした。なぜだと思いますか？

⇒ただ不思議なしるしを見たいと思っているだけの人が多く、御言葉を信じて従う人が少なかったから。

2. ところが、一人の役人（ヘロデ王家の人）とその家族だけが、大きなしるしを見て、イエス様を信じるようになりました。この人は、他のガリラヤの人たちと、どこが違ったのでしょうか？

⇒イエス様から期待通りの返事をいただけなくても、「あなたの息子は生きる」という御言葉を信じ、「帰りなさい」という御言葉に従ったところが違った。

3. イエス様はこの役人の息子とは直接会っていないのに、役人の息子はどのようにして癒されたのでしょうか？

⇒イエス様の御言葉は、遠く離れた町にいる役人の息子のところにも力をあらわす。どこにいてもイエス様は癒しの業を成し遂げてくださる。それと同じように、私たちがどこでお祈りをしても、神様はその祈りを必ず聴いていてくださる。

〈おいのり〉

神様、イエス様の御言葉は遠く離れたところへも直ちに伝わって、御心が必ず実現することを教えてください、ありがとうございます。私達はなかなか神様の御言葉に素直に聴き従えない罪深い者ですが、この素晴らしい御言葉の力によって、神様の子供らしく聴き従う者に造りかえてください。



イエスの言われた言葉を信じて帰って行った。

〈ねらい〉

イエスさまが、しるしによらずただ御言葉によって信じることを求められることを学ぶ。

〈聖書の言葉〉

いやす(いやし)、○預言者、敬う、○しるし、業、こぞって

〈展開例〉

①46節の「前にイエスが水をぶどう酒に変えられた」というのはどういうことがあったのですか(2章1～11節)。

→今日のお話の舞台が、以前イエスさまが最初の奇跡をされた場所であることをおさえます。子どもたちの中には、このお話を知っている者もいるでしょう。結婚式でぶどう酒がなくなり困っていたところ、イエスさまが水がめに水を用意させて、それを飲んでみたら上等のぶどう酒だった、という楽しいお話です。けれども、このようなことが一度あると、人々の心はまたそのような不思議な出来事を期待してしまうものです。それは、信仰とはかけ離れた珍しいもの見たさの単なる好奇心になってしまいがちです。

②48節でイエスさまは役人に、「あなたがたは、しるしや不思議な業を見なければ、決して信じない」と言われました。

(1) この時、イエスさまはどのような気持ちでこの言葉を言ったのか考えてみましょう。

(2) では、役人はどのような気持ちだったか考えてみましょう。

→王の役人であり父親であるこの人は、息子の病気を治すため他にできることはすべて尽くしたことでしょう。医者からさじを投げられ、ただ子どもを助けたい一心でカファルナウムからカナまでのおよそ30キロメートルの道のりをやって来たものと思われまふ。その父親に投げかけられたこの一言の意味を、最初はわかりか

ねたに違いありません。何でもイエスさまが自分の期待の通りにしてくれるという思いはこの言葉で粉碎されます。普通の場合なら失望して去っていくかもしれません。しかし、この人にはそれでもイエスさまによりすがり願ひ続ける事情と一途さがありました。49節でこの人は、自分をなげうってイエスさまに願ひ続ける姿勢を示します。しるしや業でなく、言葉を信じよと言うならばその通りにしますという姿勢です。イエスさまが求められたのは、まさにこの姿勢でした。

②50節で、イエスさまは「帰りなさい。あなたの息子は生きる。」との御言葉を与え、役人はそれを信じて帰りました。息子さんの病気は良くなりました。イエスさまが役人の家に一緒に行って息子をいやしたのと何が違うのでしょうか。

→子どもたちの中には、結果に目を奪われて違いを見抜けない者がいるかもしれません。息子がいやされるということからすれば、イエスさまがカファルナウムにいてもいなくても同じように思えます。しかし、この役人は自分の家に帰る長い山道を、ただイエスさまの言葉を頼りにして歩き続けたのです(30キロメートル歩き続ける大変さをイメージさせると良いでしょう。)。それがイエスさまの求められたことであり、同じことがわたしたちにも求められます。それはわたしたち自身が信仰によって変えられていくことです。それは、時に大きな忍耐を必要とすることであり、また時に長い時間がかかります。けれども、そうしてすべてを神さまに委ねて歩み続ける中で、最善の結果が祝福として与えられるということが教えられています。

〈ヒント〉

子どもたちに親の気持ちを想像させるには、助けが必要かもしれません。

〈ねらい〉

神様の御言葉には力があることを信じる。

〈展開例〉

1. 聖書をもう一度読む

2. 分かち合い

Q. 説教を聴いて教えられたこと、心に響いたこと、実行しようと心を動かされたことは？

Q. 分からなかったことは？

※教師、生徒という以前に、まず教師自身が神の御前に一人の御言葉の聴衆として、教えられたこと、感動したこと、心を導かれていることを、率直に生徒達に話すことが大切だと思います。自分の心に響いたメッセージが一番生徒の心に届くからです。分級では何かを新たに教えようと無理に導くのではなく、生徒達と御言葉を巡って語り合ったり、共に祈る時間を重視していただければと思います。

3. 質問例

※質問例は、それぞれのクラスの実情に合わせてアレンジしていただき、解答例は子供達の答えを補足したり、教えたりするのにご利用いただければと思います。

Q. 再びガリラヤのカナに来られたイエス様のみもとに来たのは誰でしたか？

→王の役人

Q. この人はどういうお願い事があってイエス様のみもとに来たのですか？

→息子が病気で死にかかっていた。

Q. イエス様が役人におっしゃった、「あなたがたは、しるしや不思議な業を見なければ、決して信じない」とは、どのような意味でしょうか？ 今日の話を理解するのに大事なことなので、考えてみてください。

→これは奇跡を目にすることがなければ信じてない、人間の頑なさや不信仰のことをおっしゃっている。トマスも「あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、また、この手をそのわき腹に入れてみなければ、わたしは決して信じない。」(20:25)と言った。それに対して主は、「見ないのに信じる人は、幸いである。」(20:29)とおっしゃった。

Q. イエス様が「帰りなさい。あなたの息子は生きる。」とおっしゃった時、役人は帰って行きました。息子の所に来ていやして下さるように熱心に頼んでいたのに、何故でしょうか？

→イエス様の御言葉ならその通りになると信頼したから。

Q. 暗唱聖句イザヤ書55:11を読んで、神様の御言葉について教えられていることを挙げてください。

→神様の御心を成し遂げ、与えられた使命を必ず果たす力がある。

Q. イエス様の御言葉通りに役人の息子はいやされました。神様の御言葉は必ず実現します。ですから、イエス様が私達にもたらすとおっしゃってくださった罪の赦しと永遠の命の約束も確かに私達の現実となるのです。イエス様の御言葉を信じて帰って行った役人のように、私達も御言葉への信頼をもって生きて行きましょう。

4. お祈り

御言葉を与えられていることの感謝。

※一人一人に祈りの課題を出してもらったり、自然に浮かび上がってきた課題を祈っても良いと思います。